

# 外国語科 全体計画

<b>教育関係法規等</b> ○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法 ○小学校学習指導要領 ○くまもと「夢への架け橋」教育プラン ○熊本県教育委員会各課取組の方向 ○天草教育事務所取組の方向 ○天草市教育振興教育基本計画	<b>外国語科の目標</b> 6年間を通して、英語に触れることにより国際理解を深め、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国際社会の中で生きるためのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。	<b>天草市基本理念</b> <b>第2期天草市教育振興基本計画</b> ～あまくさの未来を拓く「人」づくり～ 〈基本目標〉 夢や希望を持ち、自ら学び、心豊かに生きる人づくり
---	--	---

各学年における目標		
低学年（１・２年）	中学年（３・４年）	高学年（５・６年）
英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、体験的活動を通しコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。	英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと・話すことの言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。	英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

具 体 的 実 践 事 項		
低学年（１・２年）	中学年（３・４年）	高学年（５・６年）
テーマ 英語にふれ、楽しむ児童	テーマ 英語に慣れ、親しむ児童	テーマ 英語に慣れ、英語を使う児童
年間時数 20時間	年間時数 35時間	年間時数 70時間
	使用教材 Let's Try! 1, 2	文部科学省検定教科書
評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度	
評価の方法	○発表・行動観察      ○振り返りカード      ○ワークシート ○作品                      ○簡単な書くテストなど（高学年）	

教科・領域等との関連			
国語	相手に伝わるように話したり、要点を聞いて伝え合ったりする。	社会	外国について調べ学習をしたり、外国と日本の関係に関心をもったりする。
算数	数の数え方や図形など、英語でどのように表現するか関心をもつ。	理科	身近な自然や環境から英語で表現できるものを見つける。
音楽	外国や日本の音楽に関心を持ち、進んで歌ったり演奏したり聴いたりする。	図工	色や形の言い方など、英語でどのように表現するか関心をもつ。
家庭	衣食住に関する活動を通して英語でどのように表現するか関心をもつ。	体育	健康増進と体力の向上を図り、友達と協力して楽しく明るい生活を営む。
道徳	自他の生命を尊重し、お互いを大切にしようの心を養う。	特活	集団の中で自他のよさを認め、互いに協力し合う意欲や態度を養う。
総合	世界の言語・生活・文化などに対して関心をもつ。	生活	身近な生活の中から英語で表現できるものを見つける。

中 学 校 と の 連 携
小学校・中学校の情報交換を通じて、学校間の接続を円滑にし、小学校英会話科における学びを中学校英語へつなげる。

## 1 外国語科の目標

6年間を通して、英語に触れることにより国際理解を深め、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による言語活動を通して、国際社会の中で生きるためのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

## 2 各学年の指導時数(中心とする活動)

- 1・2年…年間20時間（聞くこと・話すことを中心に）
- 3・4年…年間35時間（聞くこと・話すことを中心に）
- 5・6年…年間70時間（聞くこと・話すこと・読むこと・書くことを中心に）

## 3 めざす児童の姿

- ①英語による活動を通して、言語や文化の違い等に気づき、理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けようとする児童  
(→知識・技能)
- ②6年間を通して、身近で簡単な事柄について英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする児童  
(→思考・判断・表現)
- ③英語を通して、言語や文化にに対する理解を深め、積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童  
(→主体的に学習に取り組む態度)

## 4 各学年のテーマ・目標・学習内容

### (1) 1・2年

◇テーマ：「英語にふれ、楽しむ」児童

◎目標：英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による体験的活動を通しコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

○学習内容：歌やゲームなど身体を使った体験的な活動の中で、英語に触れ、楽しむ内容。

### (2) 3・4年

◇テーマ：「英語に慣れ、親しむ」児童

◎目標：英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと・話すことの言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

○学習内容：歌やゲームなど身体を使った活動を中心に、英語に親しみ、意欲的にコミュニケーションを図る力を育てる内容。簡単な表記については、ローマ字を読んだり書いたりする。

### (3) 5・6年

◇テーマ：「英語に慣れ、英語を使う」児童

◎目標：外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

(文部科学省小学校学習指導要領)

○学習内容：※5・6年の教育課程は、教科書の年間指導計画に準ずる

## 5 評価の観点と各学年の目標

評価の観点	各 学 年 の 目 標	
知識・理解	1・2年	言語や文化について、英語による体験的活動を通して、日本語との違いや言葉のおもしろさ、に気付くようにする。
	3・4年	英語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と英語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
	5・6年	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	1・2年	英語による体験的活動を通して、英語の音声やリズム等に慣れ親しみ、英語で伝え合う力の素地を養う。
	3・4年	身近で簡単な事柄について、英語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
	5・6年	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	1・2年	英語による体験活動を通して、相手を意識して、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
	3・4年	英語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
	5・6年	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

※ 5・6年は、「外国語科」の教科となり学習指導要領の目標及び内容で行う。

## 6 各学年の領域別の目標

	5つの領域別の目標		
	小学校1・2年	小学校3・4年	小学校5・6年
聞くこと	<p>ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物について聞き取るようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物について基本的な表現の意味が大まかに分かるようにする。</p>	<p>ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。</p> <p>ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかがわかるようにする。</p>	<p>ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取るきことができるようにする。</p> <p>イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。</p> <p>ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。</p>
読むこと		<p>ア 活字体で書かれたアルファベットを識別し、その読み方を発音すること</p>	<p>ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。</p> <p>イ 音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。</p>
話すこと・やり取り	<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶などをしたり、簡単な指示に応じたりするようにする。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のことについて簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に応えたりするようにする。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。</p> <p>イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。</p> <p>ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に応えたりするようにする。</p>	<p>ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。</p> <p>イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。</p> <p>ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。</p>

話すこと・発表		<p>ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物など見せながら自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p>	<p>ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。</p> <p>ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物など見せながら自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。</p>
書くこと			<p>ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。</p> <p>イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。</p>

## 7 実施にあたって

留意事項	
指導体制	<p>○学級担任とALTによるTT授業 / 外国語科専科とALTによるTT授業</p> <p>○学級担任と英語指導補助によるTT授業</p> <p>○学級担任単独</p> <p>○外国語専科単独 など</p> <p>◆学級担任の役割</p> <p>指導計画によるT1の役目を果たす。学級の児童の様子を観察しながら、評価を行ったり、計画の修正等を行ったりする。</p> <p>◆外国語科専科</p> <p>指導計画によるT1の役目を果たす。児童の実態把握のために情報交換を密にし学級担任と連携を図りながら、専門的な知識と指導技術をもって授業をし、評価をする。</p>

	<p>◆ALTの役割 児童が触れる初めての英語は、是非ともネイティブのものでありたい。ALTの大きな役割は、ネイティブな発音を聞かせることにあり、また、ロールプレイ等での学級担任とのやりとりをメインとして考える。</p> <p>◆英語指導補助の役割 児童の学習活動の充実を図るために、指導者T1及び指導に関する計画、準備等を補助する。</p>
評価方法 (1～4年)	<p>1 各単元で評価規準を設定し、それにより評価を実施する。 (各単元では、総括的に評価をし、評価の方法は、児童の自己評価、教師による観察等による。)</p> <p>2 通知表への記録：評価 (3段階)</p> <p>3 指導要録への記録：評価 (A・B・C) ※高学年は、文部科学省の教育課程と評価に準ずる。</p>
指導について	<p>1 全体計画、年間指導計画について 全体計画、各単位時間の指導計画を確認し、計画的な運用を図る。</p> <p>2 目標、評価等について 全体の目標、各学年の目標、評価等についてもよく把握をして指導に当たる。</p> <p>3 単位時間の指導計画について (記載内容)</p> <p>(1) 1段目に「単元名、ページ数等」を記載</p> <p>(2) 2段目に「本時の目標」を記載</p> <p>(3) 3段目に「基本文や語句」や「classroom English」: 本時の学習の中で使えそうな表現を記載</p> <p>(4) 4段目に「目指す子どもの姿」を記載</p> <p>(5) 学習過程について 「ウォームアップ warm up」「めあてを知る can do」「活動 activity」「まとめ review」で構成されている。</p> <p>(6) 授業において「Can do」(めあて)と「Review」(まとめ)を英語表記で板書する。</p> <p>(7) Can doでは、めあて(ゴール)を知らせ、それを達成するための学習の流れを知らせ、児童に学習の見通しを持たせる</p> <p>(8) 活動は、児童の知的好奇心が高まるような内容、必然性のある内容となるよう計画する。</p> <p>(9) Reviewでは、めあてを意識させて自己評価カードで振り返りをさせる。気づきや感想等を発表させ、めあてを振り返る時間を確保するとともに、次時の予告を行う。</p> <p>(10) 評価の欄には評価基準Bを示す。</p> <p>(11) 各単位時間の学習について、指導の方法や内容、児童の反応等において気づきを記入する。授業の感想・意見等でもよい。</p> <p>(12) 指導にあたっては、4つのポイントを意識しながらコミュニケーション活動や言語活動に取り組ませる</p> <p>① smile (笑顔で)</p> <p>② eye contact (相手の目を見ながら)</p> <p>③ clear voice (はきはきとした声で)</p> <p>④ gesture (身振り手振りで)</p>